

第520号
令和6年

6月20日



すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

年輪を刻んだ方の出会いの場
縁処 三ノ輪新開地

「笑った。楽しかった。顔見知りができた。

長生き最高！」

縁の繋がる場所として「縁処 三ノ輪新開

地」は、ジョイフル三の輪商店街に6月1日にオープン致しました。一日滞在券で出入り自由な常設の縁側です。

介護保険法(国民の努力及び義務)第4条に「国民は、自ら要介護状態となることを予防するため、加齢に伴つて生ずる心身の変化を自覚して常に健康の保持増進に努めるとともに、要介護状態となつた場合においても、進んでリハビリテーションその他の適切な保健医療サービス及び福祉サービスを利用するこにより、その有する能力の維持向上に努めるものとする。」とあります。

要介護状態の方は、ひとり暮らしでもケアマネジヤーや介護スタッフが連携し包括的に見守り支えられています。しかし、要介護度が非該当(自立)の方は見守り支援を受ける機会が少なく、孤立された方が多く見受けられ、その方の能力の維持向上する場も中々ありません。

人生100年時代、健康長寿の3つの柱は栄養、身体活動、社会参加です。社会との繋がりを失わないことが介護予防の第1歩です。

「いつ来てもいい。いつ帰つてもいい。」

「縁処 三ノ輪新開地」は買物帰りに立ち

寄つて体操して会話を歌つて、ゲームして、縫物や編み物も出来る場所です。
「できない理由を探すのではなく、できる方

法を考える。」

「昭和、平成、令和と生きて来て、新しい事

に挑戦しないともつたいない。」

85歳のIさんはテレビゲームのボーリングで初挑戦、Mさんは脳トレに挑戦しています。

頭を使いながら状況に反応し、指先を動かすことで認知症予防になると言われています。

テレビから流れる音楽体操のリズムに合わせて運動する90歳のKさん。

96歳のSさんはシルバー

カーを押して日光街道を

渡つて来られ、着物をほ

どいてあずま袋を作成し

たり、牛乳パックで足台

を作成しています。皆さん、ひとり暮らしの

96歳Sさん

96歳のSさんはシルバー

カーを押して日光街道を

渡つて来られ、着物をほ

どいてあずま袋を作成し

たり、牛乳パックで足台

を作成しています。